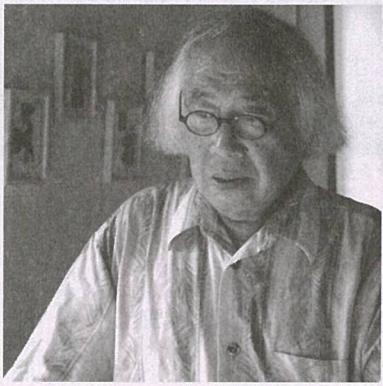


# 和紙だより



■長岡國人(ながおかくにと)

1940年長野県生まれ。1963年多摩美術大学デザイン科卒業後、グラフィックデザイナーを経て、1966年西ベルリンに移住。ベルリン国立アカデミー、ベルリン国立芸術大学・同大学院に学び、銅版画と対峙。1971-2013年ドイツを中心に、数々の国際版画展のグランプリ受賞、審査員として活躍、主要美術館収蔵多数、世界各国で約130回の個展を開催。1986年代より紙造形作品に取組む。近年はヨーロッパ、アルメニア等で和紙を使った墓碑拓本プロジェクトを実施。京都精華大学名誉教授。現在兵庫県朝来市にて、版画工房WERK-STATT N組主宰。

越前和紙への提言 長岡國人さん  
活動紹介 カジの木の会  
取組紹介 レンブラント版画の和紙を探る  
和紙ミニコートナ  
情報欄

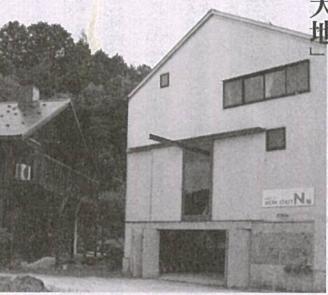
44321 頁

■長岡國人(ながおかくにと)  
1940年長野県生まれ。1963年多摩美術大学デザイン科卒業後、グラフィックデザイナーを経て、1966年西ベルリンに移住。ベルリン国立アカデミー、ベルリン国立芸術大学・同大学院に学び、銅版画と対峙。1971-2013年ドイツを中心に、数々の国際版画展のグランプリ受賞、審査員として活躍、主要美術館収蔵多数、世界各国で約130回の個展を開催。1986年代より紙造形作品に取組む。近年はヨーロッパ、アルメニア等で和紙を使った墓碑拓本プロジェクトを実施。京都精華大学名誉教授。現在兵庫県朝来市にて、版画工房WERK-STATT N組主宰。

■長岡國人(ながおかくにと)  
1940年長野県生まれ。1963年多摩美術大学デザイン科卒業後、グラフィックデザイナーを経て、1966年西ベルリンに移住。ベルリン国立アカデミー、ベルリン国立芸術大学・同大学院に学び、銅版画と対峙。1971-2013年ドイツを中心に、数々の国際版画展のグランプリ受賞、審査員として活躍、主要美術館収蔵多数、世界各国で約130回の個展を開催。1986年代より紙造形作品に取組む。近年はヨーロッパ、アルメニア等で和紙を使った墓碑拓本プロジェクトを実施。京都精華大学名誉教授。現在兵庫県朝来市にて、版画工房WERK-STATT N組主宰。

■激動のドイツで考えたこと「大地と紙」  
美大卒業後、二十六才まで東京で、グラフィックデザイナーをしていましたが、一九六六年に、二度と日本には戻ってこないつもりで、東西冷戦下最前線の西ベルリンに移住しました。体質的なものもあるでしょうが、パリやニューヨークには行きたくなかった。思えば、多くの文学や哲学を育んだ伝統ヨーロッパを継承している国で、敗戦国ドイツの戦後を眺め、東西冷戦、学生運動、一九八六年のチャルノブイリの原発事故、一九八九年のベルリンの壁崩壊、東西ドイツの統一、と激動の時代を体験したのです。またベルリン版画コレクション美術館に数ヶ月間毎日のように通い、デューラーやゴヤの本物の素描や版画を手に取つて見ることが出来ました。これが版画に進むきっかけとなりました。

僕の故郷は浅間山麓で、原風景として浅間山がありますが、常に大地のイメージがつきまとっています。当初から銅版や紙は僕にとって表現の為の単なる素材ではなく、言わば表現の大地だった。最初のシリーズ「探知期」は、厚手の白い紙を銅版画用のニードルで引っ搔いて、そこに水彩やインクを垂らし、染み込ませて、様々な模様を浮かび上がらせたものです。紙の中から何



オリジナルリサイクル紙とリユースの版を使う版画工房 WERK-STATT N組

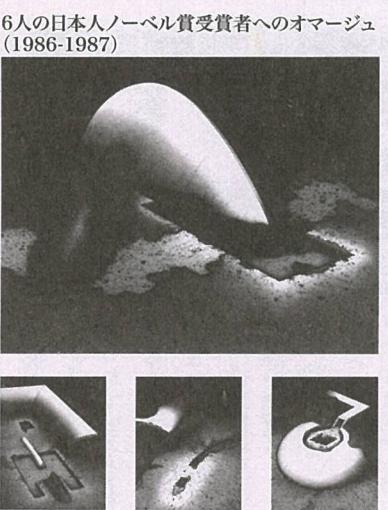
かを掘り出し、探し、時間経過を追つて、痕跡を見つけ、自己を発掘するとも言えるような作品で、言わば、画面上の紙を耕した作品でした。

## ●銅版画との決別と紙

その後、東洋回帰的な「風景の解剖学」を経て、「地球切開手術計画」シリーズでは、まるで人工衛星から見たかのような地球の表面を、冷徹で乾いたタッチで表現してみた。タイトルのドイツ語「ラント・ナルベン」のラントは大地、ナルベンは傷のことです。人間は地球の表面に都市や道路を造つたりするが、地球にとつて見れば傷を付けられるわけです。傷は治つても傷跡として残る。

一九七一～八七年の「遺跡」シリーズでは、かつての人間の構築物が静かに、無機質に大地に呑み込まれている様を表現しました。このシリーズはよく知られ、作品が世界中の美術館にも依頼されるようになりました。やはりチャルノブイリの事故は僕にとって大きなショックでした。限りない欲望を増殖させた近代文明の価値観とシステムの行き着く人間中心主義の末路が、チャルノブイリだった。エコの芽生えもこの頃で、緑の党の創始者ヨーゼフ・ボイスを始め、多くの芸術家や知識人が物質と人間の関わりを根源的に問いつらうとしていた。

一九八五年、ノーベル財團関係団体から制作依頼を受けた「六人の日本人ノーベル受賞者へのオマージュ」の銅版画には、希望の光を表現した白い部分があり、その白は素材である紙そのものの色なのです。白い光が、何のことはない、



6人の日本人ノーベル賞受賞者へのオマージュ(1986-1987)

## ●拓本プロジェクト

版画と決別し、版を作ることを否定した僕ですが、根っから版画家なので(笑)、今度は大地を版として捉えたらどうかと制作したのが一九八六年からの「脱皮」シリーズです。アイスランドでは、拓本という東洋の手法で、溶岩大地の皺、地球の力を写し取り、和紙の上に「脱皮」させた。脱皮シリーズは、その後も土や植物の纖維、穀物の種などを「脱皮」させ、「地球の皮膜」「石の脱皮」「大地の脱皮」と続き、「五穀豊穣」では立体作品のインスタレーションを手掛けました。

「石の脱皮」には、郷里の倉庫会社に残っていた古い松崎和紙の「繭袋」を用いました。

制作時に用いた  
繭袋

明治・大正辺りに作られた蚕繭の保存や運搬に使われた楮紙の大きな袋で、幾重にも張り合わせた和紙にコンニャク糊が塗ってあります。繭袋の中には様々な記憶や歴史が閉じ込められています。

二〇〇一年、チェコ共和国のSobovという村のユダヤ教会墓地の墓碑を拓本に取る活動を始めました。ここにはかつてユダヤ人村がありましたが、第二次大戦で追放されたり、殺害され、今は誰も住んでいません。貴重な墓碑文化も自然の風化と人的破壊で危機的状況です。墓地は、歴史や民族の違いを乗り越えた人類共通の死者を弔う文化や美意識が凝縮した場所。この拓本は「この世に人名がある限り」という一冊の本にまとめました。



アルメニアの美術大学学生に拓本を教える、共同作業を行っている

ルメニアには桑科の植物があり、それを原料に紙作りを教えて、現地の石を拓本できています。

## ■「カジの木の会」長野県諏訪市 カジを通して文化発掘・交流

カジの木は、和紙の主原料、楮の原種といわれます。

歌にも詠われるカジの織維で織つた「白妙」は、神官の衣、帯、紐などに使用された他、古く

からカジ紙は神社の紙垂やしめ縄にも使用された。京都、冷泉家に伝わる七夕の儀式「乞巧奠」では、詠んだ七夕の和歌をカジの葉の裏に書き、吊す。茶道のお手前でも茶菓子のお皿代わりや水指の蓋の代わりに、カジの葉を用いるという。

日本文化に関わりの深い、このカジをテーマにユニークな活動を行っているのが「カジの木の会」だ。初代代表、河野徳吉氏(紙の博物館「東京」評議員)の指導の元、文化史的・自然科学的なカジの理解を深める研究会が十年ほど続いた後、二〇〇一年、正式発足した。

### ●カジの木と特異な諏訪文化圏

二〇〇二年から、ユネスコ世界文化遺産アルミニア十字の石拓本プロジェクトを実施中で、今年で三年目になります。技法は「湿拓」で、紙は薄美濃紙、丹後二俣和紙を使用しています。アルメニアには桑科の植物があり、それを原

長の小泉悦夫さん(八ヶ岳美術館館長)によると、諏訪地方は繩文遺跡が多く出土し、繩文を採り、ゆるい形で行つてこようというの

事務局長の小泉悦夫さん 中期には日本全体の三分の一～四分の一の人口がこの地に集中してい

ます。近隣の霧ヶ峰周辺に矢じりの材料となる

上質な黒曜石が取れたこと、照葉樹林帯でドングリ、トチの実、クルミなどの木の実や川の魚や小動物が豊富に取れ、食べることに困らなかつたためか、一万余もの間、戦争をした形跡がなく、世界史的に見ても稀だという。茅野市で出土した土偶、通称「繩文のヴィーナス」の他「仮面の女神」も今年九月、国宝指定となつた。

その後、「古事記」によると、出雲の国譲りに抵抗した大国主命の次男、建御名方命が諏訪の地に逃れ、先住狩猟民族の「洩(守)矢族」に闘い勝つて、諏訪明神となる。洩矢族は負けたが、守矢神長家七八代目の屋敷には、現在「神長官守矢史料館」があり、敷地内に「諏訪カジ」が大切に育てられている。全国に約二五〇〇ある諏訪神社の総本社、諏訪大社の上社・下社の神紋を始め、この地域の学校の校章や神社にもカジ紋が多く使われ、カジは絹時代からこの地方の古層に存在している重要な植物で、これを育てながら、自分達のルーツを探り、ゆるい形で行つてこようというの

が会の目的」と小泉さんは語る。

神長官守矢史料館



諏訪大社の神紋はカジの葉 上社のカジ紋は根が4本 下社は5本。

### ●カジの植樹活動

会員数は現在四十名余り、八ヶ岳山麓に山荘を持つ文化人、地元の人々などで構成され、大文筆家、染織家、美術館関係者など、多彩な顔ぶれだ。入会金三千円、年会費三千円。主な活動は植樹だが、勉強会、講演会、展覧会、コンサートなどを時に触れて行う。

カジは雄木と雌木が別で、同じ桑科のコウゾとは植物学上は異なる。中に種を有す諏訪カジの実夏期に雌木に甘い樹液を出す実があり、雄木の花粉が蝶や蜂に運ばれ、交配が終わつた雌の実は、秋に枯れた葉と一緒に枝から落ちる。守矢の屋敷に落ちる実を直植えや苗木で、守矢屋敷のカジの実生のみ会員の庭や公共の場に植樹し育てている。今夏は、会員の東城初美さんを中心、「カジの木マップ」を制作した。この地方のカジは、明らかな意図を持つて、大切に育てられていていることが、マップを作つてみてよく分かつた」と東城さんは感想を述べる。

二〇〇二年、育てたカジの木を収穫し、古代カジ紙を



二枚漉いた。会員の染織家、松影和代さんを中心

に、カジ織りの方にもコンタクトを取り聞いて

太布織りの挑戦も始まつた。「阿波

みたが、カジの木から取ることは大変なこと

だといわれました。纖維を取り出したいとい

う夢も時間がかかりますが、気長に研究し

ていきます。」と松影さん。

### ●越前との交流

二〇二三年十月、「カジの木の会」のメンバーは、前年、古代製紙用に河野氏から送られ、越前に植えられた「諏訪カジ」の成長ぶりを確かめ、すぐれた和紙の抄造工程や越前に遺る和紙文化資産を見学する目的で、越前の和紙の里を訪問した。

大虫地区の川崎博さんと、不老地区の石川満夫さんの畑に植えられた平成二三年に送られ

たカジは、検証の結果、順調に育つていてこと

が確認できた。昨年十二月に収穫した当地の

カジは、人間国宝・岩野市兵衛氏に漉いて頂き、「越前和紙を愛する会」は、今夏の交流ツアーの折、「カジの会」にこのカジ紙をプレゼントし

た。紙は、白く光沢があり、普通の楮紙より張りが

いる。

今後、両会は交流を続けながら、

諏訪ではカジ織物の復元、越前では二千年前に作られたいたカジの経典料紙の復元

を試みる予定だ。



プレゼントされたカジ紙を見る会員

## 取組紹介

### ■レンブラント版画の和紙を探る

十七世紀オランダ最大の画家レンブラント（一六〇六～六九）は油彩の他に多くの銅版画を残しており、一六四七年頃から版画用紙に厚手の雁皮紙が使われていることが知られている。東インド会社を通して画家の手に入った和紙が越前和紙である可能性が出てきたとして、その流通経路や当時の和紙技術などを総合的に探るプロジェクトが進行中だ。

### ●きつかけと経過

レンブラントと和紙の関係が注目されたのは、貴田庄著「レンブラントと和紙」（二〇〇五年刊）だろう。着眼の新鮮さと作品・資料を徹底検証したスリリングな美術史はレンブラント版画作品に耳目を集め契機となつた。二

〇二年、版画と和紙に焦点を当てた「レンブラント・光の探求／闇の誘惑」展が東京・国立西洋美術館で開催。同年四月、日本テレビで「NEWS ZERO 特別版アートミステリーなぜ、レンブラントは版画にこだわったのか？」が放映され、地元でも人々の興味が盛り上がつたという。当時雁皮紙を製造していたのは、越前と揖津名塩村が主で、輸出されたとなると流通経路も発達していた越前の紙である可能性が高い。

今後、両会は交流を続けながら、

諏訪ではカジ織物の復元、越前では二千年前に作られたいたカジの経典料紙の復元

究員、和紙文化研究会の修復専門家、越前和紙製造者など七人で、同館所蔵の銅版画「病

人たちを癒すキリスト」等を機器も用い石川

満夫氏持参の越前の古い料紙と比較観察。版

画は雁皮系の鳥の子紙と推定された。

五月、福井県の調査団、西川一誠知事一行が、ア

ムスティルダム国立美術館を訪れ、復元した鳥の子紙と顕微鏡写真を渡し、調査を依頼。

六月、越前の和紙職人らはレンブラントの和紙復元紙の材料とするため敦賀半島の山間部で雁皮を採取。

六月三十日、県と市、越前和紙を愛する会、県和紙工業協同組合、学識経験者などの関係機関が、「越前和紙研究会」（石川浩理事長）を設立。同日、シンポジウムを開催するなど、にわかに動きも活発化してきている。

### ●シンポジウム

「巨匠レンブラントが愛した和紙に迫る」シンポジウムでは、三氏がレンブラントの和紙特定に繋がりそうな、文物に使用された（特に雁皮紙）の組成・製法・技術の推移、纖維分析などについて発表した。

古代の紙は麻紙系のものが多いたが、雁皮が最初に確認されているのは、七五六六年の「東大寺献物帳」で、楮75%、無色の雁皮25%の混合紙

であることが明らかになっている。平安時代の多くの美しい紙には度々滲き返した墨の痕跡が見られ、雁皮が栽培できず貴重な原料であることから、紙の大消費地であった京都では雁皮の再利用が常識化されていたのでは、と語る。日本人は、ここぞという名品には雁皮紙を用いているという。

増田勝彦氏（和紙文化研究会副会長）は、レン

ブラントが生きた一六〇〇年代の文献に出て

くる雁皮（鳥の子）の記述をあげた。「駿府御分物御道具帳」（一六一六年）、俳諧論書「毛吹草」（一六四五五年）、町の商売や由来を記した「難波雀」（一六七九年）、「擁州府志」（一六八四年）、「諸国万買物調方記」（一六九一年）などに鳥の子紙の表記が見られ、越前の名が出てくることを指摘。



「レンブラント版画用紙の纖維分析」  
大川 昭典  
増田 勝彦 氏

「レンブラントが活躍した時代の東西の手漉き紙」

「日中韓の料紙の特徴」 高橋 裕次 氏

エズス会宣教師が日本で出版した「キリシタン版」に使用されている紙をオランダ商人がめざとくかぎつけ、商品にして、レンブラントの手に渡つた可能性があると指摘。氏は「キリシタン版」のうち、東洋文庫にある三種類を昨年観察する機会を得た。「日葡辞書」（一六〇三～四年）には、雁皮の厚様、薄様、間似合。「ドナ・キリシャン」（一五九一年）の表紙には米粉入り雁皮紙。「聖教精華」（一六一〇年）の見返しには、填料なしの素直な雁皮が使われていた。

大川昭典氏（元高知県立紙産業技術センター）は、一九九七年、オーストラリア・メルボルンのヴィクトリア国立美術館所蔵のレンブラント版画二点の纖維組成鑑定を依頼された経験があり、その事例を報告。竹、三桠、亜麻、綿の他、五点に雁皮百分率入りや染色した

雁皮織維が観察できた。使われている紙は坪量103～200gと厚手で、中には流し漉きの漉き合わせで作られたものもあった。紙を貼り合わせ、一緒に乾燥した雁皮（間似合紙）の漉き合はせは、以前調べた江戸時代の「領地目録」興味津々のシンポジウム参加者



に見られるため、比較調査紙にはこの紙を付け加えてはという示唆を行つた。

●今後の予定  
シンポジウム  
翌日の七月一日、面々は今立歴史民俗資料館で一六四〇七年代の越前に残る厚手の和紙を

調査。十月には「和紙研究会」

今立歴史民俗資料館で調査する「和紙研究会」メンバー（七月一日）

ランダに持参し調べる他、願わくはその紙に先方が所蔵するレンブランの版で実際刷つてみて、出来具合を観察できないかと依頼中だという。これらの成果は、十一月に越前で開催される「和紙文化講演会」で発表され、今後の取組の方向性についても意見交換する予定だ。



関連企画「Interactions: カナダ・日本の版画展」が開催され、カナダ・日本の版画家のトークショーには、五十名余りが参加した。

（代表 門田けい子）が、より専門的で学術的な情報交換の場が欲しいとの要望を受け、二〇一一年六月、淡路島と京都で開催。今回の本会議（於東京芸術大学）には、海外から百数十名のアーティストや大学関係者が参加し、技法、表現、歴史哲学、社会、国際交流、教育などのテーマで研究・作品発表が行われた。

又、関連プログラム（於アーツ千代田3331）では、世界の版画スタジオ、レジデンスの作品展示や交流、紙の需要・供給の意見交換、紙道具の展示販売、国際的なネットワークづくりを目指す担当者会議、拓本や研ぎのワークショップなどが用意された。その他、本会議直前の九月九日、カナダ大使館では、日加修好八五周年を記念した

■第一回国際版画会議、東京で開催  
近年、環境に優しい技法として海外で高い関心を集めている水性木版画の第二回国際版画会議が去る九月十九～二十四日、開催された。第一回会議は、和紙の「平紙」の消費を促すべく、長年日本で木版画のアーティスト・イン・レジデンスを運営してきた「国際木版画ラボーIMC」

（代表 門田けい子）が、より専門的で学術的な情報交換の場が欲しいとの要望を受け、二〇一一年六月、淡路島と京都で開催。今回の本会議（於東京芸術大学）には、海外から百数十名のアーティストや大学関係者が参加し、技法、表現、歴史哲学、社会、国際交流、教育などのテーマで研究・作品発表が行われた。

又、関連プログラム（於アーツ千代田3331）では、世界の版画スタジオ、レジデンスの作品展示や交流、紙の需要・供給の意見交換、紙道具の展示販売、国際的なネットワークづくりを目指す担当者会議、拓本や研ぎのワークショップなどが用意された。その他、本会議直前の九月九日、カナダ大使館では、日加修好八五周年を記念した

## 情報欄

### ●イベント情報

#### ■越前市出前講座

時:平成26年10月15日(水)  
場所:越前市東小学校

#### ■ふくいふるさと祭り

時:平成26年10月26日(日)  
場所:池田町能楽の里文化交流会館  
※墨流し体験あり

#### ■平成26年度「伝統的工芸品月間国民会議全国大会・佐賀大会」関連

- ・第31回伝統的工芸品月間国民会議全国大会(式典)  
時:平成26年11月20日(木) 14:00～15:00  
場所:武雄市 武雄市文化会館
- ・第33回全国伝統工芸土大会  
時:平成26年11月20日(木) 15:15～17:00  
場所:武雄市 武雄市文化会館
- ・第33回全国伝統工芸土大会 懇親会  
時:平成26年11月20日(木) 18:30～20:30  
場所:嬉野温泉

#### 編集後記

戦後ドイツの精神文化、諏訪市での縄文文化、レンブランの紙を巡る時間空間の旅。今号は有形無形にイメージあふれる旅にワクワクしました。(よ)

#### ・2014伝統工芸ふれあい広場・さが

時:平成26年11月21日(金)～24日(月) 10:00～17:00  
場所:有田町 嵐の博記念堂コンベンションホール  
※越前和紙は「墨流し体験」で参加します。

#### ・2014全国くらしの工芸展・さが

時:平成26年11月21日(金)～24日(月) 10:00～17:00  
場所:有田町 嵐の博記念堂コンベンションホール

#### ■今立現代美術紙展2014(仮称)

時:平成26年11月21日(金)～27日(木)  
場所:越前市いまだて芸術館

#### ■和紙文化 in 越前 関連

- ・第22回和紙文化講演会「越前和紙の伝統と創造の世界」  
時:平成26年11月24日(月) 13:00～17:30  
場所:いまだて芸術館
- ・交流会  
時:平成26年11月24日(月) 18:00～19:30  
場所:今立ふれあいプラザ
- ・展覧会「Echizen 和紙を創作する」  
時:平成26年11月15日(土)～12月14日(日)  
場所:卯立の工芸館・紙の文化博物館
- ・産地見学会「越前と和紙漉き工房を自由に見学」  
時:平成26年11月25日(火) 9:00～12:00

#### 和紙文化 in 越前

越前和紙の世界



詳細:  
<http://washiken.sakura.ne.jp/admission/>